校報 岩園 臨時号　令和４年(2022年)4月11日

芦屋市立岩園小学校
校長　横田　薫

いよいよ新学期のスタートです

学校の教職員も４月１日で異動があり、新しい体制で新学期を迎えています。昨年度同様、保護者の方や地域の方とも協力しながらより地域に開かれた活気ある学校を創っていきたいと思いますので、宜しくお願いします。

さて、その第一歩として、今年度に岩園小学校がめざす子ども像や学校像を知っていただき、同じ方向で子ども達の成長を見守っていきたいと思います。まだまだ成長途中の子どもですので、自分に都合の良いように話をしたり、学校での態度とご家庭での態度が違ったりする場合も往々にしてあります。子どもの話を聞かれたご家庭のご意見と学校の考え方や対応について溝ができることがあるかもしれません。そういう時こそ、学校と家庭がしっかりコミュニケーションを取りながら、子どもの気持ちに寄り添い、問題解決に向けて取り組んでいきたいと思います。子どもには常に笑顔で、有意義で楽しい生活を送ってほしいと思っています。その気持ちは教師も保護者も一緒です。

以下「めざす子ども像」「めざす学校像」「学校教育目標」これが、岩園小学校の教育のめざす最終目標になります。これらを達成するためにカリキュラムの編成や授業の在り方を検討することや尊感情や他者理解の心を高める手立てをおこなっていきます。

学校教育目標　学び合い　支え合い　高め合い
～未来を切り拓く生きる力の育成～

めざす子ども像
〇考えて行動できる子
〇みんなと助け合うことができる子
〇見通しを持ってやりぬく子

めざす学校像
〇子どもの学びを保障する学校
〇一人一人に居場所のある学校
〇規律のある学校

一方、目標だけでは絵に描いた餅になってしまいます。達成するための具体的な手立てを組織的に実践していくことが必要です。今年度は以下７つについて重点的に取り組んでいきます。

（１）すべての児童に「確かな学力」が身に付くよう教育活動を展開する。

・教師は、児童の「主体的に学ぶ力」の育成をめざし、全教科・領域を通して主体的・対話的な学びのある授業づくりを追求する。
・「読書タイム」や「岩っこタイム」、「朝の会」の時間を活用して、思考力・判断力・表現力を育む読書･スピーチなどの指導と話す・聞く力を育てる指導を継続して実施する。
・平素から学習規律を見直し、発達段階に応じて系統的に身に付くよう「話す・聞く６カ条」を活用して丁寧に学習態度を育てていく。

（２）特色ある学校づくりに努め、総合的･発展的な授業を創造する。

・人の生き方や考え方に触れる「キャリア教育」を推進する。
・総合的な学習の時間や生活科のカリキュラムの充実に努めるとともに、地域の人材を活用した外部講師を招聘するなど、地域に根差した教育を進める。

（３）道徳教育の充実を図り、人権感覚豊かな児童の育成を図る。

・道徳の授業では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、健全な自尊感情を育むような授業を追究する。
・いじめ防止基本方針を教職員に周知し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。いじめの兆候を発見した時には、迅速かつ組織的に対応する。

（４）特別支援教育における推進体制の整備を図り、特別支援教育の充実に努める。

・一人一人の教育的ニーズ、保護者の願いに応じた指導体制の充実を図り、関係機関との連携を進めながら、合理的配慮にもとづく支援を行う。
・インクルーシブ教育について教員だけでなく、児童と保護者への理解を図る。

（５）教職員の専門性と指導力の向上をめざし、研修に努める。

・同僚性を高めるために研修･研究活動を通じて人間関係づくりに努めるとともに、学級の特色は大切にしながら、実践内容の平準化につながるよう、学年内の打合せを密に行い、共通認識を確かなものにする
・児童理解を深めるとともに、スクールカウンセラーをはじめ、関係機関と連携し適切な指導につなげられるようにしていく。

（６）保護者や地域から信頼され愛される、開かれた学校づくりを進める。

・学校教育活動全体で保護者や地域の更なる教育力を発掘し、その活用を積極的に図る。
・学校の姿を地域や保護者に公開することで教育活動への理解と協力を求めるため、オープンスクールを実施するとともに、学校便りやホームページを通して、学校からの情報発信を積極的に進める。

（７）ICT 活用を図るとともに、情報モラルの育成に努める。

・市内タブレット活用実践事例集を参考にして、単元の中でタブレットが有効な場面では、積極的に活用した授業づくりに努める。
・情報モラルに関する系統立てた指導を実践するとともに、家庭・保護者への協力依頼・啓発に努める。

特に、今年度は（４）で示している通り、人権教育の重点事項として「特別支援教育」の充実を図ります。昨年の新１年生入学説明会でも岩園小学校が取り組んでいる特別支援教育やインクルーシブ教育について話をしています。昨年の学校だより１２月号でもより詳しく芦屋市の特別支援教育の変遷も含めて触れています。（再度ホームページ等で参照いただければ幸いです。）

その子の生き難さや特性を周りが理解して、本人も周りの児童も人として共に成長していけるそんな場面がたくさん見られるようになればと思います。学校では教師が授業や学校生活の中で折に触れながらインクルーシブ教育の意義や一緒に学ぶことの意味について発達段階に応じて推進していきます。ご家庭でもこの４月新しい学級になったことをきっかけにご家族で話す時間をもっていただけると幸いです。学級懇談会で担任よりこのことについてはお話しさせていただきます。